

ぽるたるGAMAGORI 景観デザイン指針



令和8年 蒲郡市

— 目次 —

1	景観デザイン指針の概要	1
	(1) 背景・経緯	2
	(2) 目指す方向	3
	(3) 本デザイン指針の位置づけ	4
	(4) 運用方法	5
2	全体指針	6
	(1) 景観づくりの基本方針	7
	a. ぼるたるGAMAGORIらしい景観づくり	7
	b. みどりの基本方針	8
	c. 夜間景観の基本方針	9
	(2) 対象範囲およびゾーニング	10
3	ゾーン別指針	11
	(1) 各ゾーン共通事項	12
	a. 一般工作物	12
	b. 独自の工作物	14
	c. 夜間景観	15
	d. 屋外広告物	16
	(2) 竹島ふ頭	17
	a. 景観づくりの基本方針	17
	b. みどりの景観	18
	c. 夜間景観	20
	d. 大屋根、建築物	21
	e. アートモニュメント	23
	(3) 護岸緑地	24
	a. 景観づくりの基本方針	24
	b. みどりの景観	25
	c. 夜間景観	27
	d. 建築物	28
	(4) 竹島ベイパーク	29
	a. 景観づくりの基本方針	29
	b. みどりの景観	30
	c. 夜間景観	31
	d. 建築物	32
	参考資料	
	用語解説	33

1 景観デザイン指針の概要

- (1) 背景・経緯
- (2) 目指す方向
- (3) 本デザイン指針の位置づけ
- (4) 運用方法

1 | (1) 背景・経緯

蒲郡市は、三河湾に面した港町として発展し、温泉観光や臨海工業とともに都市形成が進められてきました。海と陸を結ぶ交通・産業・観光の背景のもと、海景と緑地が連続する、暮らしと交流が調和した魅力を有するまちです。

これまでの蒲郡市東港地区のまちづくり計画について

- 三河湾に面したまちの特色を活かして、臨海部を対象とした各種計画が策定され、その一部に基づいて施設や空間の整備が進められてきました。
- 「三河港ポータルネッサンス21（1988年）」や「蒲郡インターハーバー計画（1994年）」などがつくられましたが社会情勢の影響を受け暫定利用にとどまっています。
- 2021年に「蒲郡市東港地区まちづくりビジョン」を策定し、市民や民間事業者と共にまちづくりを推進していくための、新しいまちづくりのあり方を示しました。



これまでの背景を踏まえ、蒲郡の海の玄関口である「過ごしたくなるみなとゾーン（ぼるたるGAMAGORI）」に着目し、本デザイン指針を策定します。来訪者の第一印象となる景観を共有し、将来にわたり質の高いみなと空間の形成を導くための指針とするものです。

1 | (2) 目指す方向

ぼるたるGAMAGORI（以下、「ぼるたる蒲郡」という。）は、市街地と観光地が隣接する位置にあり、蒲郡の海の玄関口を構成するゾーンです。三河湾の眺望や水際の開放性に加え、ふ頭・緑地が連続する空間構成により、日常と非日常が重なり合う景観特性を有しています。



共に育てる港の景観

市民や事業者、来訪者が関わり続けることで魅力が高まる景観を目指します。イベントや日常利用の積み重ねが風景として定着するよう、柔軟で受け入れ力のある空間構成や、使いこなしを許容する景観づくりを進めます。

港とまちが響き合う景観

商業や滞在、交流の賑わいが港の風景として感じられる景観形成を図ります。建築や外構、屋外活動が周辺環境と調和しながら重なり合い、地域らしさと多様な表情が共存する港の景観を誘導します。

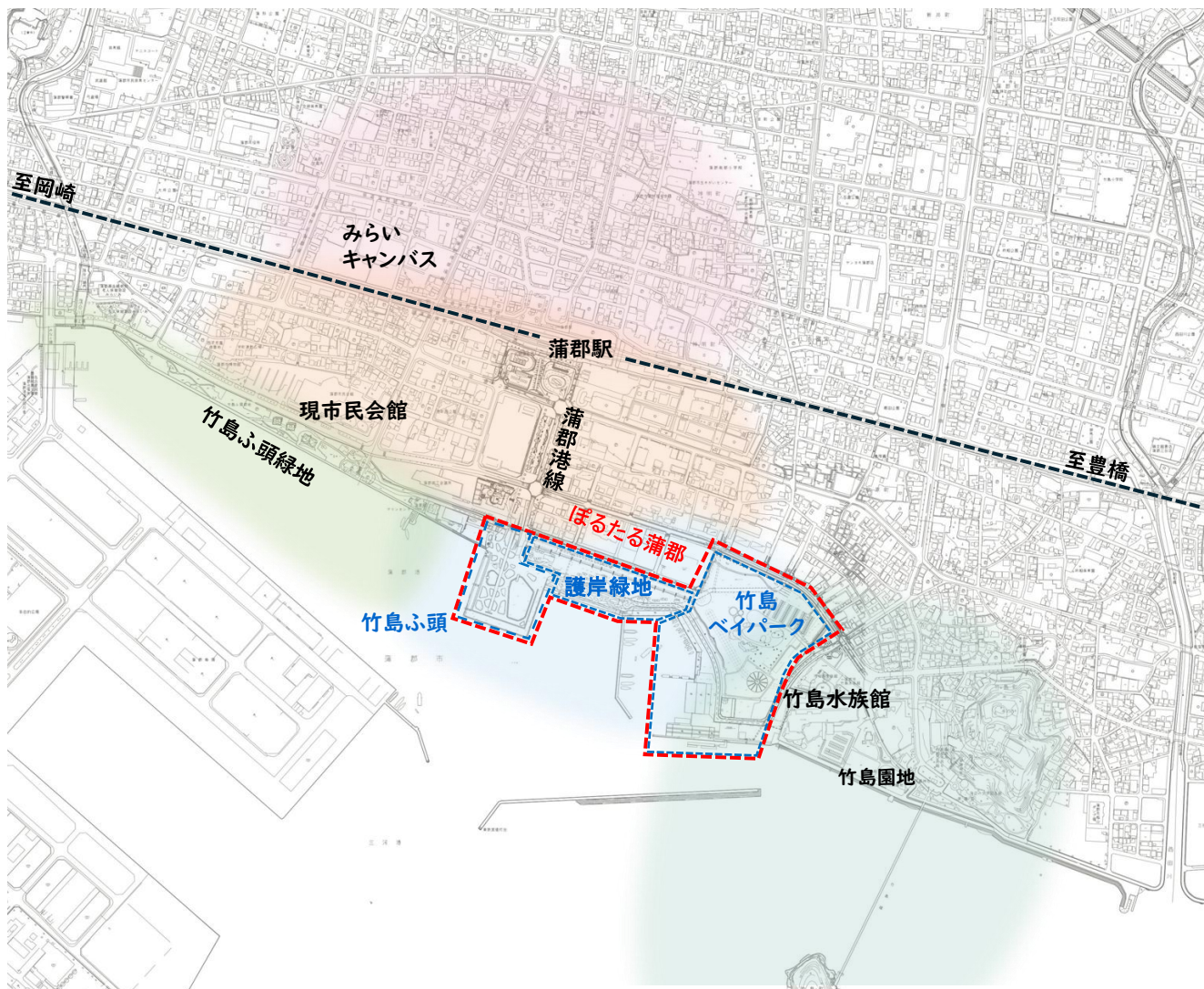
環境と共生する港の景観

海・緑・空といった自然環境を基盤とし、環境負荷の低減に配慮した景観形成を進めます。素材選定や照明、緑化などを通じて、時間とともに価値が高まる、持続可能で次世代につながる港の景観を目指します。

1 | (3) 本デザイン指針の位置づけ

本デザイン指針は、東港地区の中でも、みなとの玄関である「過ごしたくなるみなとゾーン（＝ぼるたる蒲郡）」を対象にしたものです。

これらの空間を計画・設計・管理・更新する際に、共通の方向性をもって質の高いまちづくりを進めるための指針としています。



本デザイン指針は、全体像としての空間性を尊重し、各主体が創意工夫を発揮しながらも、一貫した方向性を共有できることを目的としています。

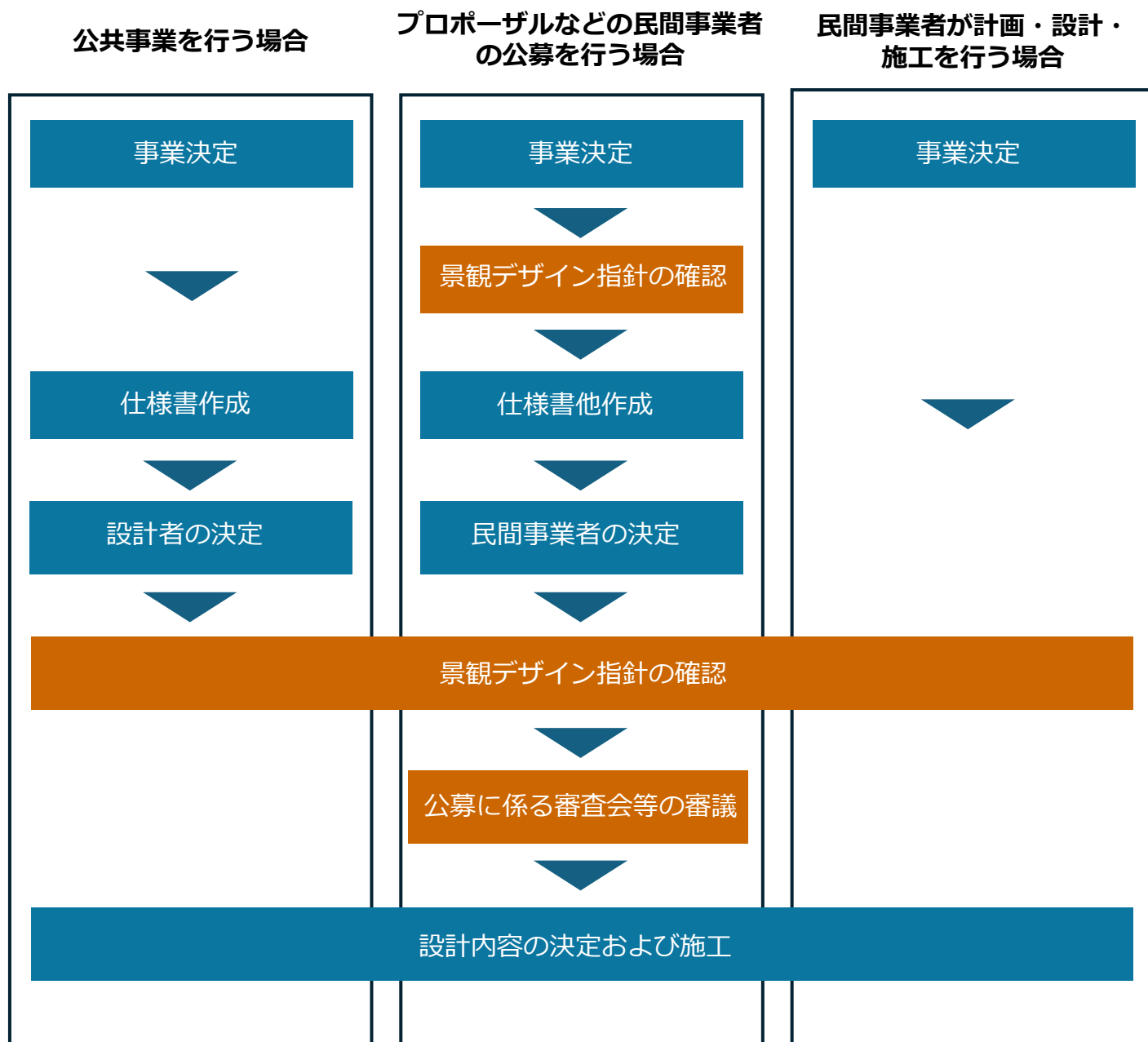
行政が実施するプロポーザルや公共事業、また民間による取組を含め、対象範囲におけるハード整備に関わるすべての主体が共有し、遵守すべき基本的な考え方を示すものです。

都市の骨格と各構造物のデザインの関係を踏まえ、空間や場において「何を大切にし、どのような価値や体験を育んでいくのか」という理想や方向性を明らかにする、まちづくりにおけるデザインの指針として位置づけています。

1 | (4) 運用方法

以下の段階において本デザイン指針を参照し、基本方針やデザイン方針に基づいた仕様書の作成ならびに設計・施工を行うこととします。

- ① ぼるたる蒲郡で、公共事業を行う場合
- ② ぼるたる蒲郡で、プロポーザルなどの民間事業者の公募を行う場合の、仕様書・要求水準などの作成の際。
- ③ ぼるたる蒲郡で、民間事業者が計画・設計・施工を行う場合



2 全体指針

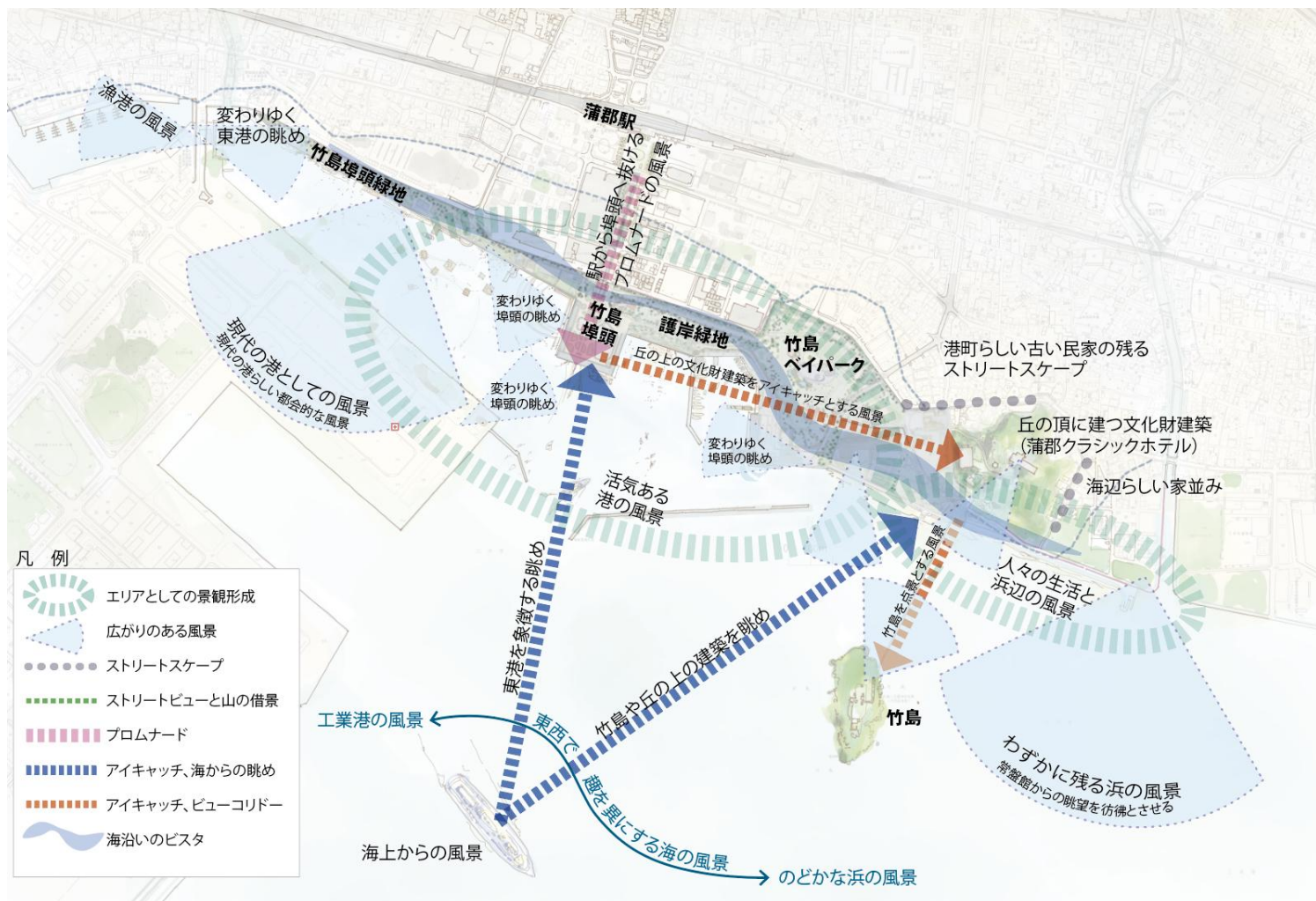
- (1) 景観づくりの基本方針
- (2) 対象範囲およびゾーニング

2 (1) 景観づくりの基本方針

以下に、景観づくりの基本方針を示します。各エリアにおける景観づくりと、エリア相互の景観的な関係づくりを進めることで、「1. (2) 目指す方向」で示した景観の実現を図ります。

a. ぽるたる蒲郡らしい景観づくり

- ・一日を通じて、竹島や三河湾のさまざまな表情と賑わいの様子が楽しめる風景を形成します。
- ・伝統的な建築物とアートモニュメントなどの新たな文化的要素が共存する風景を守り、育てます。
- ・豊かなみどりを舞台に、多様な人の営みが展開する風景を築く。



2 | (1) 景観づくりの基本方針

b. みどりの基本方針

- ・ 竹島ふ頭西側の港湾緑地から竹島ふ頭、護岸緑地、竹島ベイパーク、そして竹島へとつながるみどりを連続的に散りばめ、東西の骨格となるグリーンネックレスを形成します。
- ・ 蒲郡駅から竹島ふ頭へと、海への期待感を演出する連続的なみどりを創出します。
- ・ 四季折々の花や木々を取り入れ、人々が季節の変化を楽しみながら歩き、憩える場を育みます。



<各所の樹種イメージ>

南北の骨格をつくる



象徴的で緑陰樹にもなるケヤキ



海辺らしい彩りを生むサルスベリ

東西の骨格をつくる



港と景観をつくるクロマツ



蒲郡らしさの象徴となる蒲郡みかん

2 | (1) 景観づくりの基本方針

c. 夜間景観の基本方針

- ・ ぼるたる蒲郡にしかないオンリーワンの夜景を創出します。
(ランドマークのライトアップやランドスケープの形を活かす)
- ・ 暖かな光に満ちた、安全・安心で居心地の良い海辺を創出します。(電球色での統一・下方配光の照明の採用)
- ・ 緑を活かす、緑が安心感をつくります。(樹木ライトアップは鉛直面の明るさ感としてとらえる)
- ・ 商業施設のあかりを活かします。(漏れ光や店舗ファサードのあかり、路地のあかり)



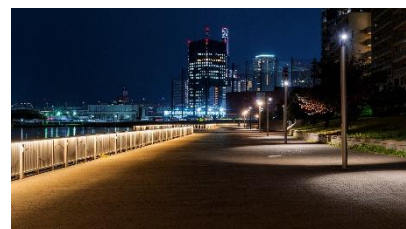
<創出される各所のイメージ>



路面照明と樹木ライトアップでつくる美しいプロムナード



ランドマークのライトアップや噴水など様々な間接照明によって演出される夜景



手すり間接照明や路面へのスポットライトが創り出す陰影のあるみなのあかり



モニュメントやアートによる賑わいを誘発するあかり



オープンカフェや店舗の漏れ光がつくる心地よい商業施設の夜間景観



間接照明による足元のあかりが、人の居場所に安心感をつくる

2 | (2) 対象範囲およびゾーニング

景観づくりの基本方針を踏まえ、ぼるたる蒲郡を特徴ある3つのゾーンに区分し、それぞれの役割や魅力を整理することで、「1. (2) 目指す方向」で示した景観の実現を図ります。



【竹島ふ頭】

竹島ふ頭は、**JR蒲郡駅から海へとつながる動線の先端**に位置し、都市と三河湾を結ぶ結節点となるゾーンです。広い空間はイベントなど多様な活動を受け入れる潜在力を持ち、**竹島や山並みを望む眺望は、この場所ならではの開放的な景観体験を生み出します**。駅からの軸線強化や海との関係づくりにより、水際の拠点としてさらなる魅力向上が期待されます。

【護岸緑地】

護岸緑地は、堤外地の細長い形状と海面に近い高さが特徴で、**静かな水辺散策を楽しめる線状の公共空間**です。広がる空や海、潮位変化など、日常的に水辺の移ろいを感じられる景観的魅力を備えています。**店舗が並ぶことで賑わいが生まれるとともに、竹島ふ頭と竹島ベイパークをつなぐ緩やかな動線として、回遊性や滞在性を高める工夫により価値向上が期待されます**。

【竹島ベイパーク】

竹島ベイパークは、まとまった緑地で、**海・空・島を望む開放感が特徴**です。芝生地やゆるやかな地形は多様なレクリエーションに対応し、近隣住民から観光客まで幅広い利用が見込まれます。**竹島との一体的な景観の中で「海辺の縁側」としての潜在力**をもち、滞在拠点としての魅力向上が期待されます。

3 ゾーン別指針

- (1) 各ゾーン共通事項
- (2) 竹島ふ頭
- (3) 護岸緑地
- (4) 竹島ベイパーク

3 | (1) 各ゾーン共通事項

a. 一般工作物

ファニチャー、柵などの管理施設、室外機などの設備機器などの工作物を作る際には、以下の方針をもとに計画・設計・施工・管理することとします。

- ・南北方向の軸性や東西方向の連続性を踏まえ、配置やスケールを整えることで港全体の風景と調和する構成とします。
- ・周辺の自然環境や地域の歴史的背景に調和し、素材・色調・形状を選定します。
- ・海への開放感を妨げない、海とみどりが連なる風景に調和した意匠とします。
- ・将来の維持管理や塩害などの環境負荷を考慮した、持続可能な設計とします。
- ・ベンチ等の休憩施設は、人の居場所を生む、形状、規格とします。
- ・室外機、分電盤などの景観阻害要因は、色調を整える、目隠し等の景観調和を図ります。

デザイン例

ベンチなどの休憩施設

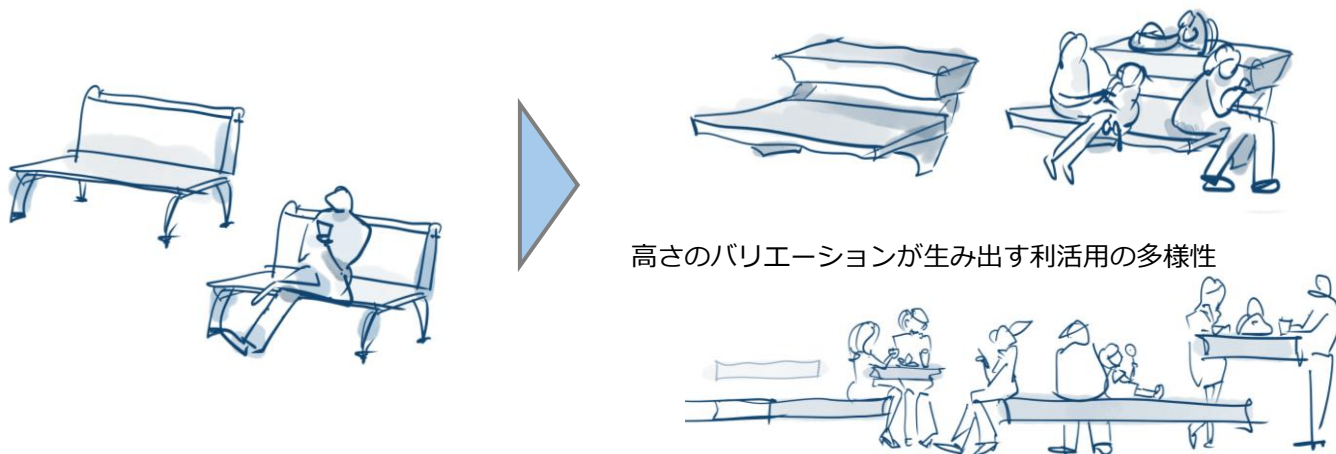


動線を考慮した配置や木陰など、心地よく過ごせる環境をつくります

OK

意匠的な魅力と自由な使い方を促進

BETTER



高さのバリエーションが生み出す利活用の多様性

多様な座り方・使い方がうまれる高さ・形状とします

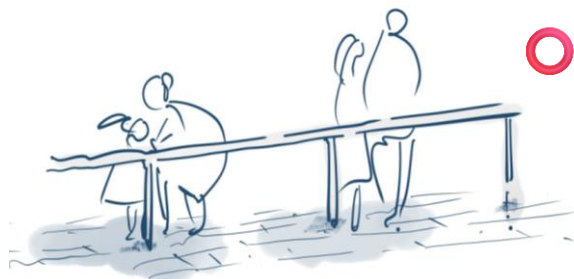
3 | (1) 各ゾーン共通事項

a. 一般工作物

柵類



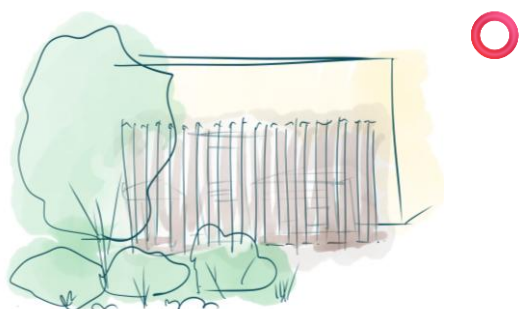
主張しすぎる太い支柱や柵が風景と馴染まない



眺望を阻害しない構造、風景と調和する部材

海への景観を阻害しない、シャープで風景に溶け込む形状・色調とします

空調機など、屋外設備



景観を阻害しないよう、植栽や意匠的な目隠しを施します

3 | (1) 各ゾーン共通事項

b. 独自の工作物

ぼるたる蒲郡ならではの景観形成を担う独自の工作物を下記に示します。工作物の計画・設計の際には、まずこれらに該当するかを確認することとします。

フラッグ付プロムナード照明、複合設備ポール、車止めボラード、分電盤・制御盤などの設備盤、キュービクル、照明器具の防護施設

素材

重耐塩（塗装を含む）の金属製

- ・必要な強度を確保しながら部材断面を小さく抑えることができ、他の素材と比べてシャープで軽快な外観を形成できる金属類を基本とします。
- ・設置場所や費用対効果を鑑みて適切な材質・表面処理を選定し、長期的な景観性維持を図ります。



アルミ型材(※)



スチール(※)



ステンレス



コンクリート
(擬木を含む)



木材

※重耐塩塗装を施したものとします。

シャープで軽快な外観を形成できる素材とします

色調

濃灰色

- ・線的、面的に連続する施設は、色調次第で景観に大きな影響を与えます。
- ・景観に配慮した色調として、国土交通省「景観に配慮した道路附属物などガイドライン」に記載のある濃灰色を基調とします。
- ・なお、ステンレスについては、素材そのものの色彩を活かすことを基本とします。



ダークグレー
10YR3.0/0.2

周辺の景観に配慮した色調とします

形状

角型等、シャープな形状

- ・シャープで、かつ空間全体に溶け込む形状とします。
例) 角型形状は舗装や他施設との納まりが整い、施工性や維持管理の面で合理的な形状です。
- ・隣接する工作物と調和する形状とします。



角型ボラード
イメージ

シャープで、かつ空間全体に溶け込む形状とします

3 | (1) 各ゾーン共通事項

c. 夜間景観

色温度

照明の色温度とは、光の色合いを示す尺度で、単位はケルビン（K）です。

数値が低いほど赤みがかった暖色、高いほど青白い寒色となり、空間の雰囲気や心理的印象に影響を与えます。



色温度によって空間の印象は大きく変わります。

全域で「電球色」を基本とします

鉛直面の明るさ感

人の視野の7~8割はタテの面（鉛直面）を見ていと言われています。そのために「鉛直面の明るさ感」は重要です。

夜間の環境において、その場所に対して「明るい」と感じるには、壁や樹木などの鉛直面に対して明るさがあることが重要です。



室内からの漏れ光や外壁のライトアップなどによって明るさ感が高い場合、街路全体に明るさ感と安心感が高まります。



路面の照度を基準とおりに設計していても、鉛直面に暗がりがあれば、暗さや不安を感じることがあります。

「鉛直面の明るさ感」を大切にします

照明制御による省エネルギー

LEDの普及により、今日では公共空間でもエリア全体での調光制御が可能です。

エリアごと、街路ごとに深夜でも安心安全な明るさを保ちつつ、大幅なエネルギー削減が可能で、欧州では急速に普及しており、美的価値と安全・安心と環境配慮の同時実現が広がっています。



日没~21:00

必要なすべての照明が80%以上の明るさで点灯し、トータルで整ったエリア夜景となります。



21:00~24:00

演出に特化した照明などが消灯し、基本的な明るさを確保するあかりのみが60%程度で点灯。



24:00~夜明け

常夜灯となる安心安全を確保するための基本の照明のみが点灯。大きな省エネルギーが図れます。

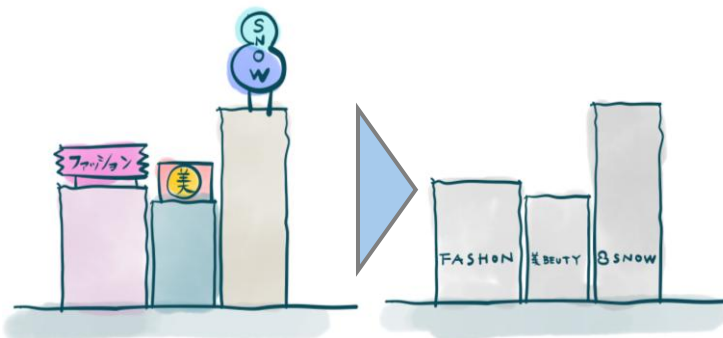
「照明制御」を可能な限り取り入れましょう

3 | (1) 各ゾーン共通事項

d. 屋外広告物

広告物の設置位置

- ・屋外広告は可能な限り、建築物から掲出ししないようにします。
- ・特に海への眺望や建物群によるスカイラインを守り、統一感のある景観形成を行います。
- ・平面配置についても、動線の軸性や広場の全体イメージを阻害しない配置とします。



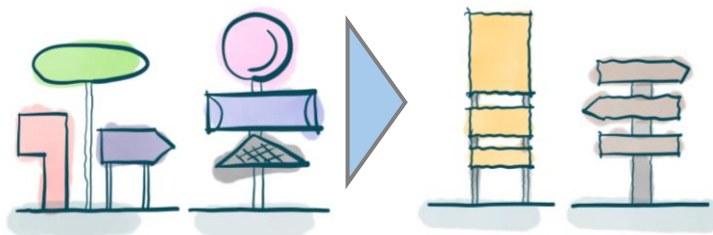
不揃いで掲出している

一体感や統一感がある

海への眺望やスカイラインを守った形状とします

広告物の集約

- ・屋外広告は分散させず、視認性と景観への配慮の両立を図るため、可能な限り集約して掲示します。
- ・広告の量や掲出位置を整理することで、視界のノイズを抑え、周辺景観との調和を確保します。



乱立 共同柱不揃い

不揃いで掲出している

掲示を集約し
揃える 形態を
揃える

一体感や統一感がある

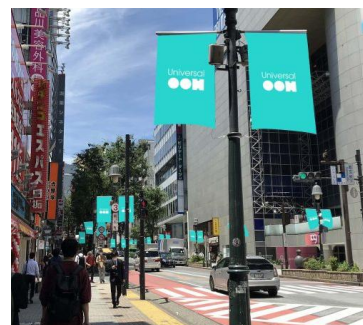
可能な限り集約し、見やすくわかりやすく表示します

広告物のデザイン

- ・広告物の形状、色彩、素材は周辺建築や景観要素との調和を図り、過度に主張しない計画とします。
- ・表示内容や情報量は適切に整理し、視認性を確保しつつ、景観の連続性や落ち着きが損なわれない表現とします。
- ・地域の活動や店舗の魅力が適切に伝わる表現とし、場の賑わいや回遊性の向上に寄与する計画とします。



建物と一体の屋外広告



賑わいを高める屋外広告

建築物や屋外空間とセットのデザインとします

3 | (2) 竹島ふ頭

a. 景観づくりの基本方針

竹島ふ頭は、港湾機能と賑わい利用が重なり合う、ぼるたる蒲郡の中核となるエリアです。三河湾に開かれた眺望と広場的な空間構成を活かし、イベント時と日常利用が共存する、開放性と動きのある港の景観を形成します。



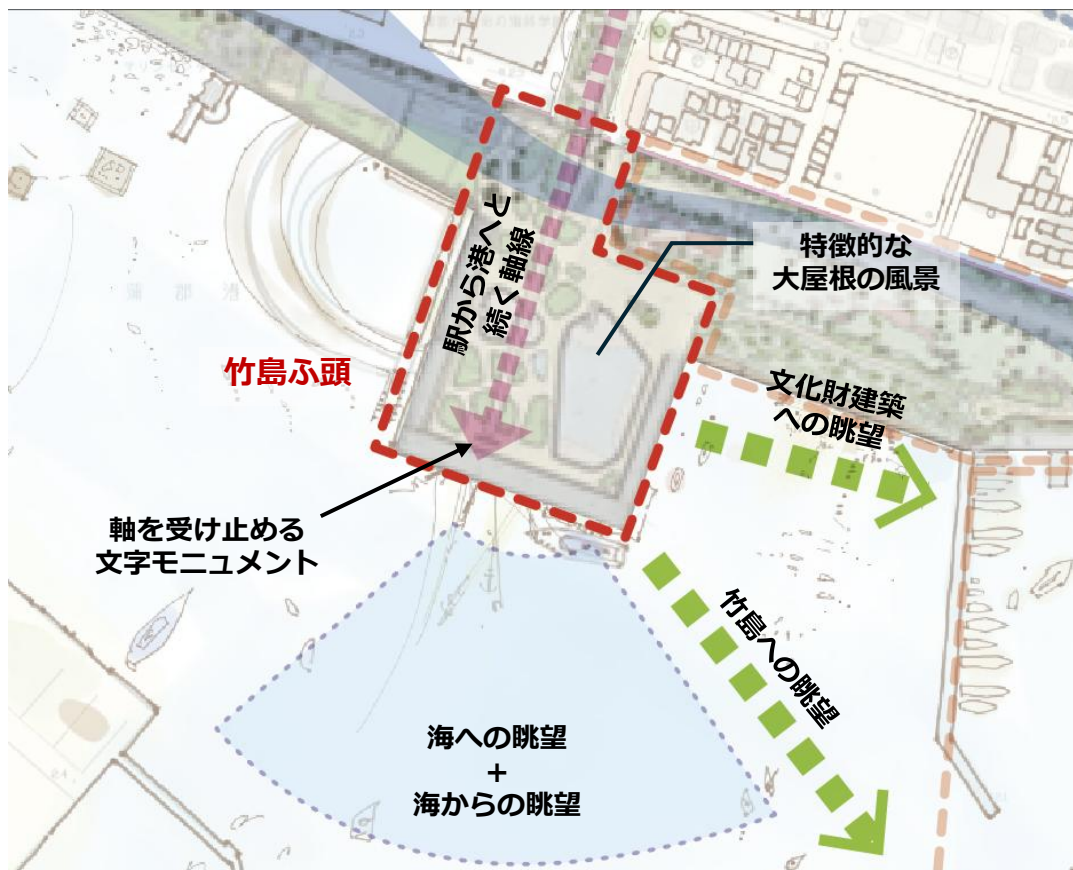
現況写真：駅から海方向を望む



現況写真：3号岸壁側から竹島ふ頭を望む

これらの状況を踏まえ、本ゾーンは以下の方針で景観づくりを行います。

- ・ 駅からの軸性を受け止め、港の玄関口としての景観を形成します。
- ・ 人の滞在や活動が風景として感じられる空間構成とします。
- ・ 海への眺望・海からの眺望に配慮した、海と空に開けた景観とします。

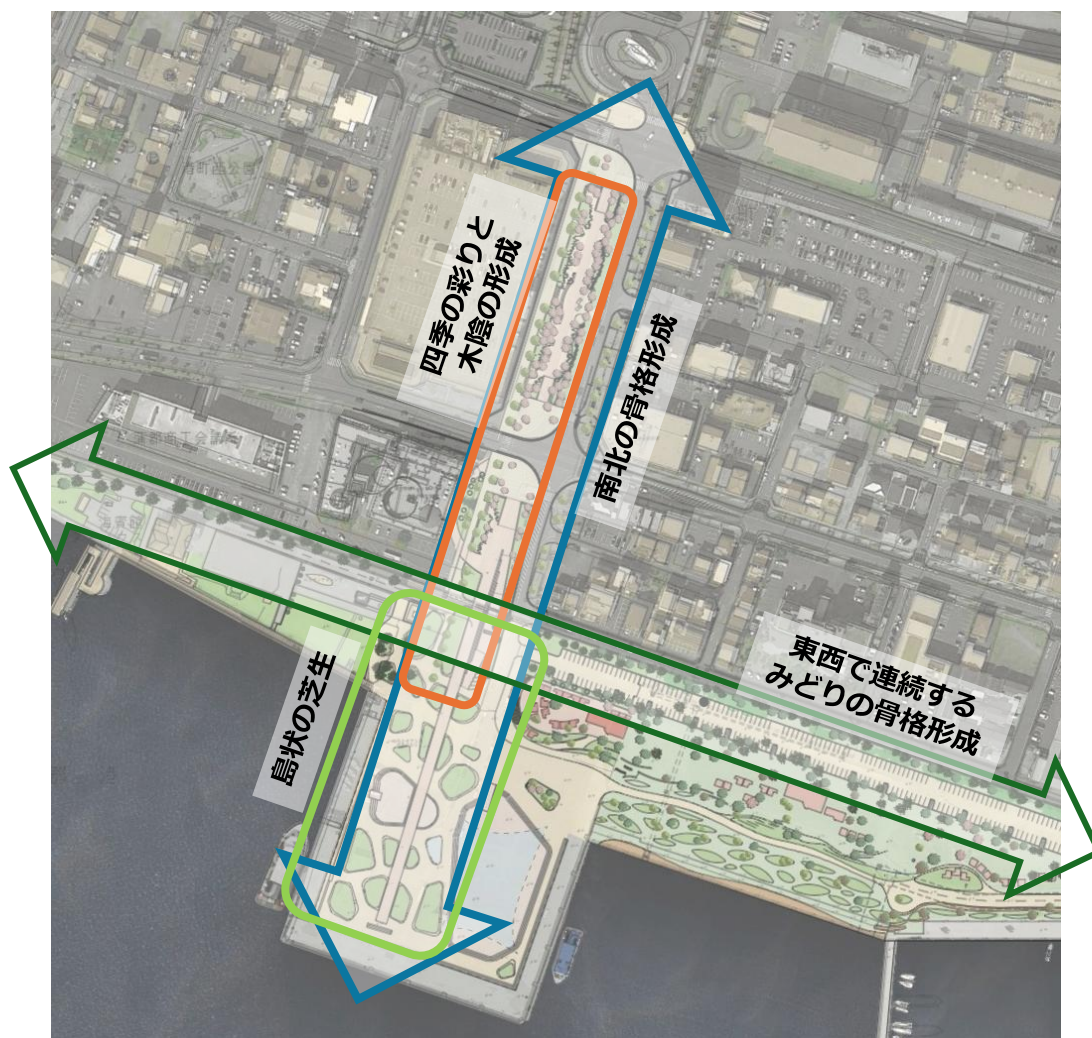


3 | (2) 竹島ふ頭

b. みどりの景観

竹島ふ頭のみどりは、以下の方針をもとに計画することとします。

- ・ 駅からの南北軸を受け止め、港へと導く連続性のあるみどりを形成します。
- ・ 島状芝生の配置とスケールにより、開放感と滞在性を感じられる景観を形成します。
- ・ 維持管理のしやすさに配慮し、省管理で持続可能なみどりの景観を整えます。



3 | (2) 竹島ふ頭

b. みどりの景観

造成方針

南北軸を整備する際は、駅側から海への眺望性を向上させ、十分な植栽地盤厚を確保するため、**全体に地盤高さをあげる**ことを基本とします。また、防潮壁以南は、災害時の安全性や視界の開放感を確保するため、南北軸の視線の抜けに配慮しつつ、地盤高を一部**防潮壁天端レベルまであげる**こととします。



竹島ふ頭部 断面イメージ

植栽方針

- ・南北の骨格として、木陰を生むケヤキと、複数の軸線としてのサルスベリを選定する方針とします。なお、海際に植栽するケヤキについては、耐潮性の高い類似代替としてアキニレなどを選定する方針を採用します。
- ・足元植栽には、最小限の管理で美しく整うナチュラル植栽とします。
- ・活動と植栽がセットになるよう、心地よく活動が自然に起こりやすい植栽配置とします。

東西の骨格をつくる



ケヤキ



アキニレ

足元を省管理で美しく整える



ナチュラル植栽



サルスベリ

3 | (2) 竹島ふ頭

c. 夜間景観

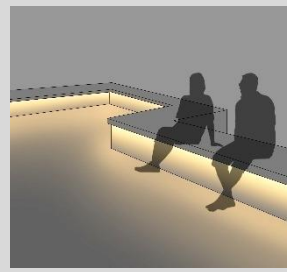
- ・ 点在する芝生の間接照明によるオンリーワンの夜景を創出します
- ・ プロムナード照明とシンボリックなモニュメント照明による駅からの視線誘導効果を図ります
- ・ 緑と水による居心地の良さと安心感のある夜景とします

あかりの方針

- ・ 色温度の電球色での統一
- ・ 駅からの連続性をはかる「フラッグ付プロムナード照明」の設置
- ・ 樹木・モニュメント・噴水などライトアップ、およびベンチや手すりなど屋外間接照明の推奨
- ・ 商業エリアは建物外壁からの照明及び建物からの漏れ光を利用する夜間景観形成

照明演出の手法

■ 芝生広場の照明（賑わい創出の工夫）



広々とした芝生は日中には過ごしやすいですが夜間には暗がりとなってしまうがちです。
周辺部からスポットライトポールで照射するなど、芝生には部分的にでも明るい場所をつくりましょう

■ ベンチや手すりなどの間接照明による安心感の創出



- ・ 歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じない設置方法を検討します。
- ・ 特にベンチなどの屋外家具の間接照明の場合は光源の地面への映り込みに注意します。光が当たる面はツヤ消しにします。
- ・ 昼間の景観に配慮し、器具が見えないように隠します。光源が直接見えると効果が損なわれます。



ベンチ下間接照明



ベンチアッパーライト



手すり間接照明



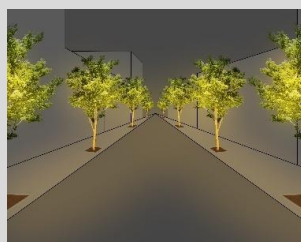
植栽樹ベンチ間接照明



■ プロムナード・ストリート演出の工夫



フラッグポールとスポットライト



樹木のライトアップ

- ・ 照明器具やポールを連続性をもって配置し、光のリズム感で誘導を促進します。

■ モニュメントなどのライトアップの注意事項



- ・ 歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないようにします。
- ・ 適切な配光の器具を選択します。
- ・ 昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ目立たせないように。

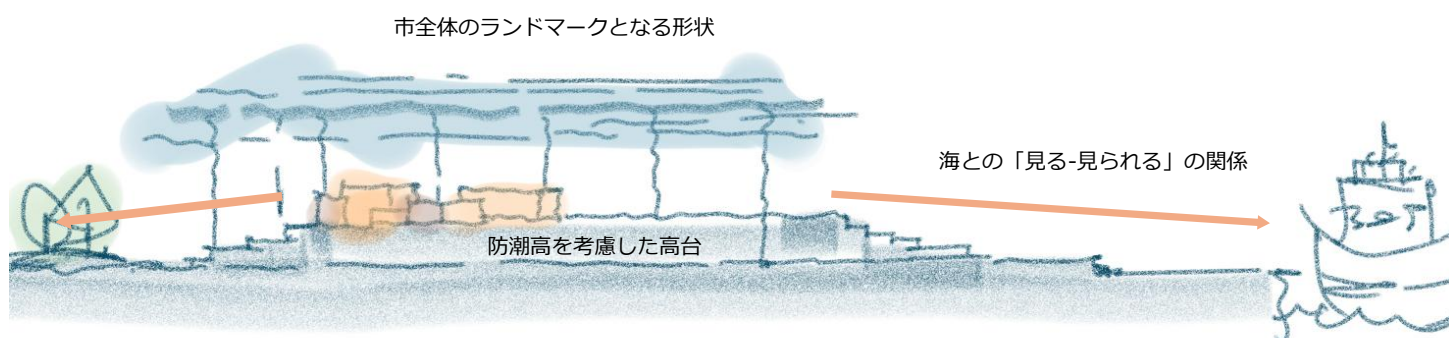
3 | (2) 竹島ふ頭

d. 大屋根、建築物

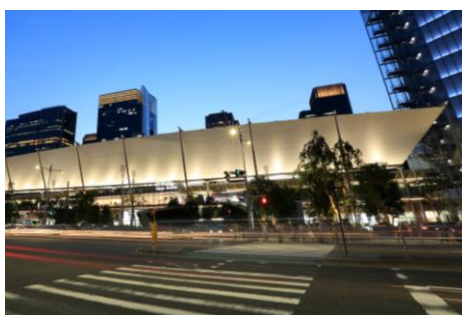
大屋根は、以下の方針をもとにデザインすることとします。

- ・ 蒲都市全体のランドマークとなる、集客力を備えた象徴的なデザイン
- ・ 歴史・文化・風土を読み解き、蒲郡らしさや港の景観を表現するデザイン
- ・ 駅から海への軸性を強調し、海への開放感を感じられるデザイン
- ・ 防潮および眺望機能をもつ基壇と一体となり、全天候で利用可能なデザイン
- ・ 夜間にも遠方から視認でき、景観ランドマークとして機能する照明計画

❖大屋根デザインの例)



ランドマークとなる象徴性や海への眺望性を兼ね備えた大屋根とします



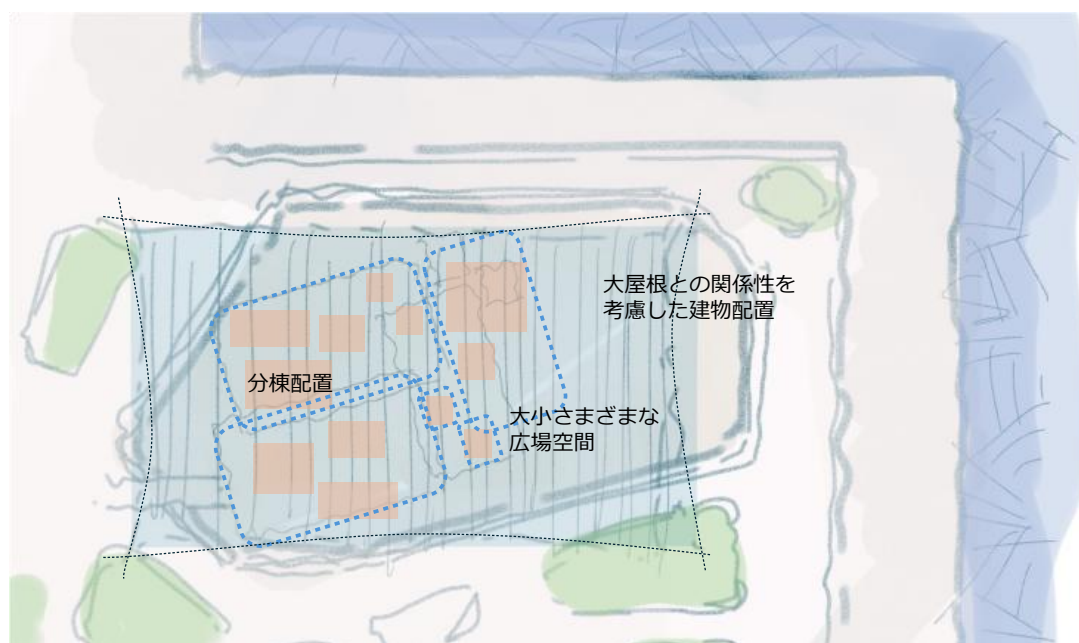
電球色での日常のライトアップの他に、にぎわいづくりにつながる特別な日のカラー演出ができる工夫も検討しましょう（フルカラーの投光器等）

3 | (2) 竹島ふ頭

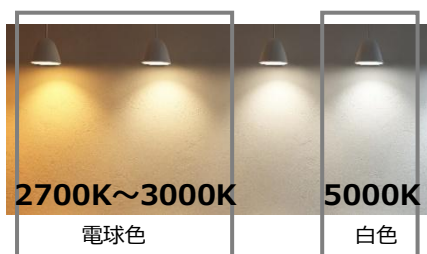
d. 大屋根、建築物

大屋根下の建築物は、以下の方針をもとにデザインすることとします。

- ・ 東港地区やぼるたる蒲郡の将来計画にふさわしい大屋根との一体的なデザイン
- ・ 路地や広場といった屋外空間の利用と合わせた分棟デザイン
- ・ 海やまち・ふ頭など各方面への眺望性を活かした配置計画
- ・ 建物からの漏れ光やサインの工夫によるやさしい印象の夜景
- ・ 夜間にも活用できる、明るさのあるにぎわいスペース



大屋根下の建築物は、分棟の良さを活かした建物配置と
過ごしたくなるにぎわいスペースの創出をしましょう



室内の漏れ光を意識した
照明計画をしましょう



統一感のある看板やサイン
内照の場合は文字のみとする



屋根下の広場は滞在できる
明るさを確保しましょう

電球色（3000K以下・推奨2700K）を基本とします

施設のあかりや広場の明るさ確保で夜間にも心地よく過ごせるようにしましょう

3 | (2) 竹島ふ頭

e. アートモニュメント

竹島ふ頭に設置するアートモニュメントは、以下の方針をもとにデザインすることとします。

- ・ 蒲郡らしさを備え、一日を通して楽しめるデザイン
- ・ フォトジェニックで、旅行の目的物になり得るデザイン
- ・ 背景となる海と港の風景との調和、または対比を生み出すデザイン
- ・ 夜間の象徴的な景観と合わせた照明計画

デザイン例

❖他都市でのアートモニュメントの例)



HAT神戸のAnimal 2021-01-B (KOBÉ Bear)の例



十和田市現代美術館のフラワー・ホースの例

単独で目的物となる、シンボリックで蒲郡らしいデザインとします

3 | (3) 護岸緑地

a. 景観づくりの基本方針

護岸緑地は、竹島ふ頭からベイパークへと連なる水際の線状空間として、港全体の景観をつなぐ役割を担っています。店舗が立ち並び、海に近い開放的な環境と緑の連続により、歩行や滞在を通じて水辺の魅力を感じられる、落ち着いた景観を形成します。



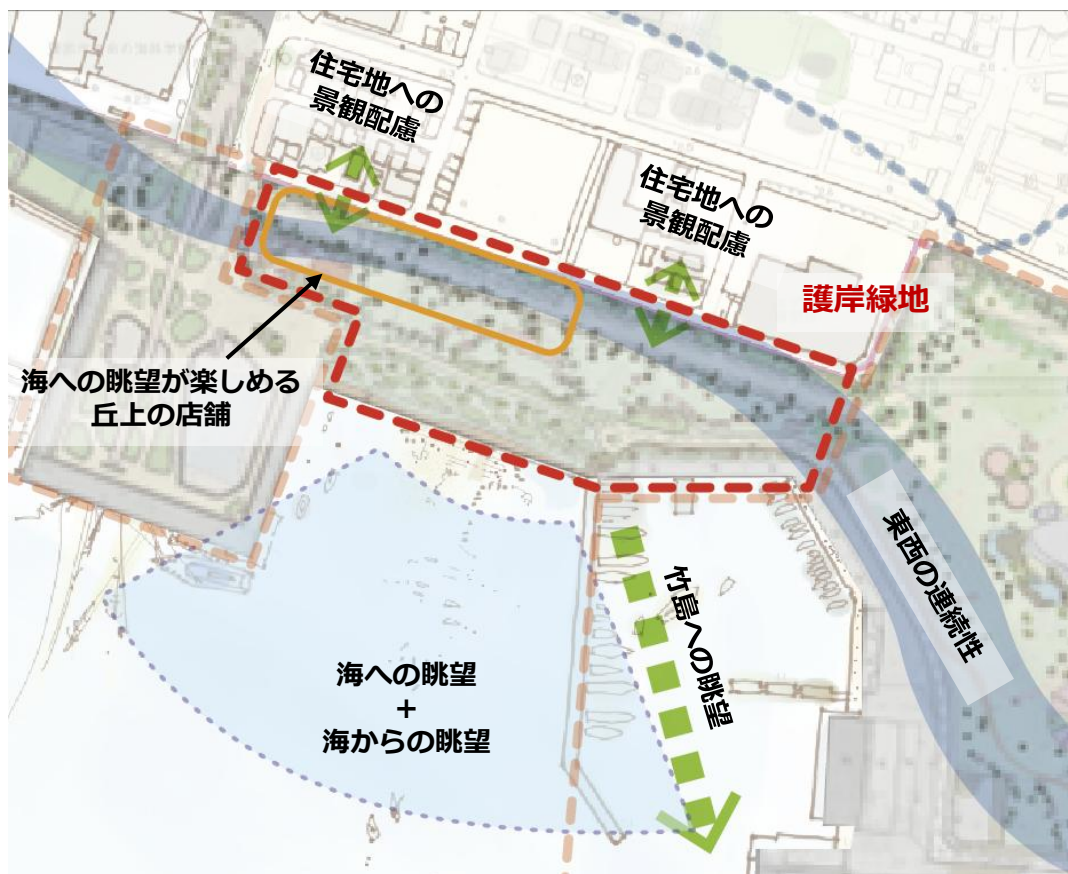
現況写真：護岸緑地からベイパーク湾岸を望む



現況写真：護岸緑地から西側のふ頭方面を望む

これらの状況を踏まえ、本ゾーンは以下の方針で景観づくりを行います。

- ・ 港全体をつなぐ水際の連続した景観軸を形成します。
- ・ 四季の彩りを感じられる植栽により、歩く楽しさのある景観をつくります。
- ・ 海への眺望を楽しみながら、店舗の賑わいを感じられる景観を整えます。

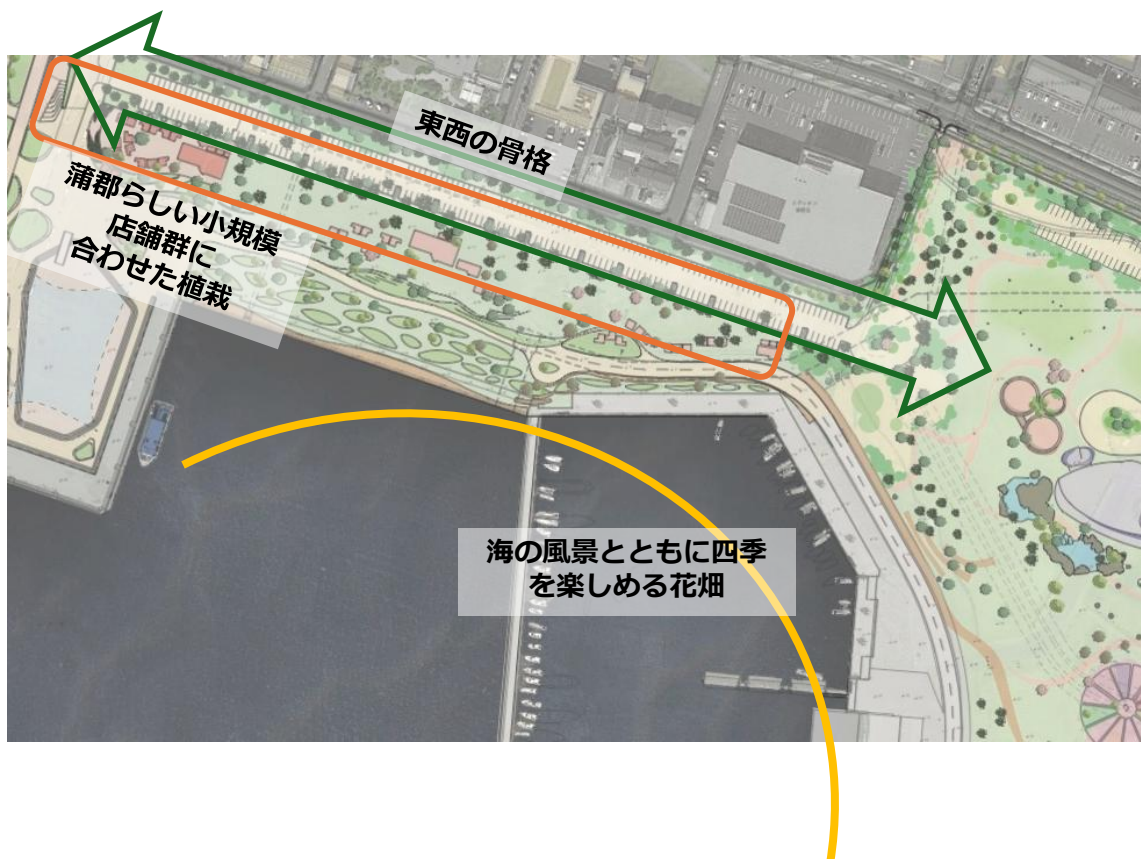


3 | (3) 護岸緑地

b. みどりの景観

護岸緑地のみどりは、以下の方針をもとに計画することとします。

- ・ 四季折々の草花や花木を配置し、季節の彩りを楽しみながら過ごせる緑をつくる。
- ・ 蒲郡を代表する植栽（みかん等）を積極的に取り入れ、蒲郡らしさを醸成する。
- ・ 高潮を考慮し、ラリーの様子や海への眺望を安全に楽しめる地形を生む。



造成方針

ふ頭側の地盤は現状を活かしつつ、防潮堤側を中心に盛土を行うことで、高潮時の安全性を確保します。あわせて、緩やかな地形操作により海への眺望性を高め、安心して滞在できる水辺空間となるよう造成します。



3 | (3) 護岸緑地

b. みどりの景観

植栽方針

港湾緑地らしい耐潮性の高いクロマツやオリーブ等の常緑樹を基本とした、東西の骨格を形成するための高木群と、蒲郡らしさを演出する添景としての中高木を植栽します。足元植栽は、芝生を基本とし、低木や中木は最小限とします。

【代表的な候補樹種】

東西の骨格をつくる



クロマツ



オリーブ



ホルトノキ

蒲郡らしさを演出する



蒲郡みかん



ローズマリー



花畑イメージ

3 | (3) 護岸緑地

c. 夜間景観

- ・ 店舗のファサード照明や路地のあかりによって紡がれる期待感のある商業夜景
- ・ 樹木と花壇の照明演出による、圧倒的な「水と緑と光」の海岸風景
- ・ 道路は路面のみを照らすあかりでグレア（不快なまぶしさ）の無い水辺を目指す

あかりの方針

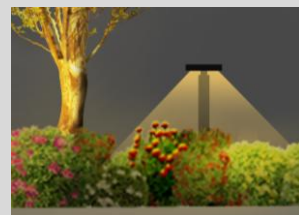
- ・ 商業施設の建物照明・漏れ光の色温度の統一
- ・ 樹木ライトアップや花壇の照明演出
- ・ 海をながめるのに最適な遊歩道照明（手すり間接照明）と道路照明（下方配光）の導入

照明演出の手法

■ 樹木のライトアップのコツ



- ・ 樹木のライトアップは基本的に「木の根元から幹に沿って照射」します。照明機材は30～40°の広角を使用するのが一般的です。また、樹種や樹形によって配灯する位置の調整が必要です。
- ・ 盗難や破損などに備え公共整備ではガードや遮光ボックスを設置します。
- ・ 花壇のあかりも必要です。地被類など背が低い場合は、下方配光の低ポール灯を使いますが、ナチュラルスティックガーデンなど高さが様々になる場合は、3 m程度のポールスポットライトで上から照射します。



■ 店舗外部のあかり



軒先提灯：誘客効果



植栽のライトアップ：上質感



日よけ暖簾：演出効果



サイン演出：視認性創出

■ 路地や細街路のあかりの工夫



公共照明の設置ができない細街路では、民間照明による演出が重要です。外壁からのスポットライトや壁面間接照明、民間敷地での低ポール灯や露地行灯、ファニチャーを利用した照明効果など様々な工夫が考えられます。

3 | (3) 護岸緑地

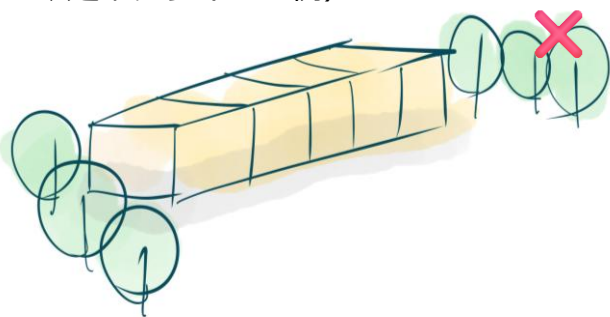
d. 建築物

護岸緑地に建築物を新築する際には、以下の方針をもとにデザインすることとします。

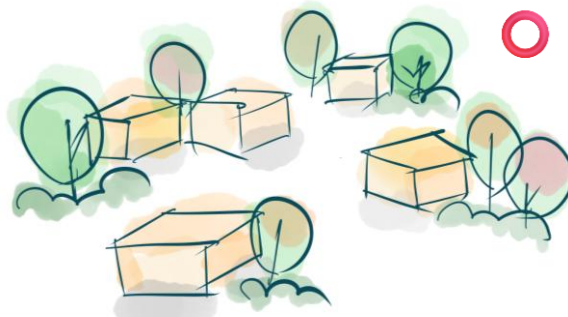
- ・東西のシークエンスや周辺の建築物との関係性に配慮された配置、形状である。
- ・海辺の路地的風景を基調とし、海への眺望や植栽との関係性を楽しめるデザインである。
- ・東港地区らしい賑わい風景の創出に対する工夫がなされた形状、色調である。
- ・海や空への開放感を感じる形状である。

デザイン例

❖建築デザインの例)



一方通行的空間



リズムカルなデザイン、交わる空間

路地や広場といった屋外と一体にエリアを楽しめる体験をデザインします



眺望を考慮していない配置



眺望を活かす配置

海への眺望を意識したデザインや配置とします

3 | (4) 竹島ベイパーク

a. 景観づくりの基本方針

竹島ベイパークは、港湾エリアの東側に広がるまとまりのある緑地空間として、海と空、みどりを大きく感じられる開放的な景観を有しています。広がりのある芝生や園路、眺望点が点在し、滞在や散策を通じて港全体の魅力を受け止める、落ち着いた景観を形成します。



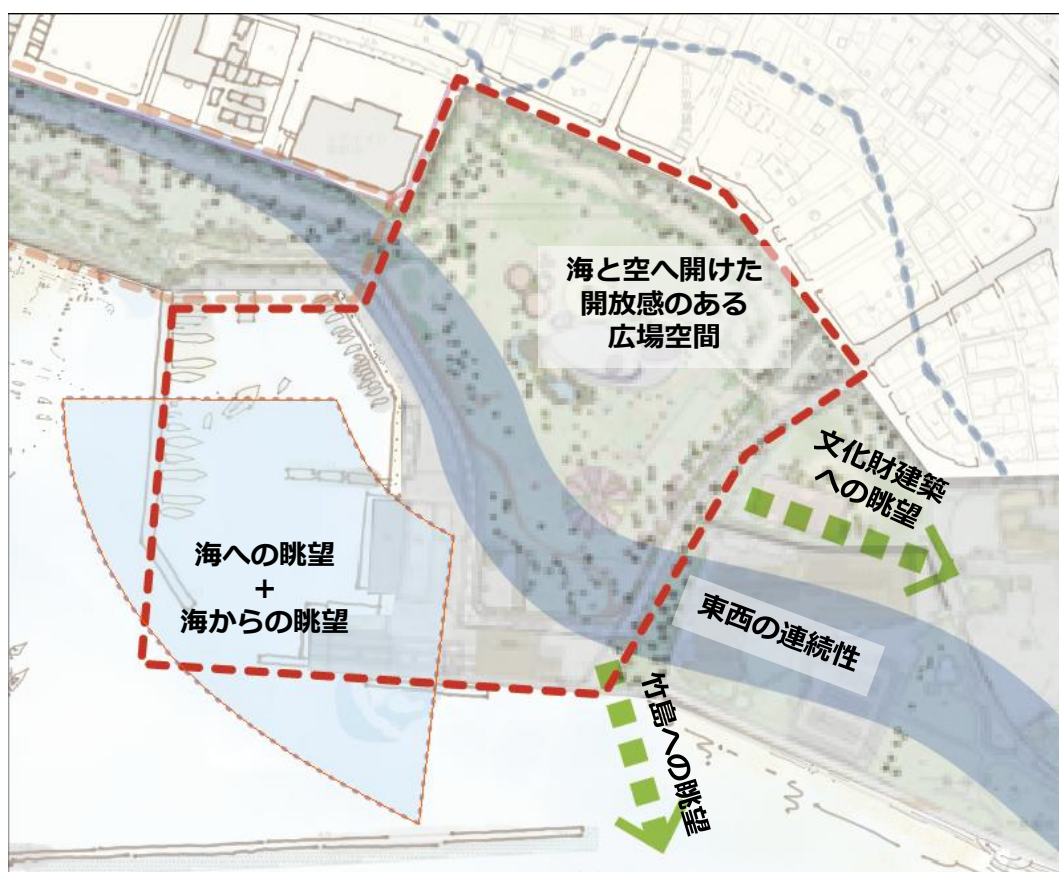
現況写真：ベイパークから竹島ふ頭方面を望む



現況写真：ベイパークから竹島方面を望む

これらの状況を踏まえ、本ゾーンは以下の方針で景観づくりを行います。

- ・ **港全体を受け止める広がりのある景観の骨格を形成します。**
- ・ **海・空・みどりを一体的に感じられる開放的な景観をつくります。**
- ・ **落ち着いた滞在や憩いを支える、ゆとりある景観を整えます。**



3 | (4) 竹島ベイパーク

b. みどりの景観

竹島ベイパークのみどりは、以下の方針をもとに計画することとします。

- ・ 海と空への広がりを感じられる、開放的なみどりの景観を形成します。
- ・ 芝生と樹林のバランスにより、落ち着いた滞在を支える景観をつくります。
- ・ 四季の変化を感じられ、省管理で持続可能なみどりを整えます。



植栽方針

港湾緑地らしい耐潮性の高いクロマツやオリーブ等の常緑樹を基本とした、東西の骨格を形成するための高木群と、蒲郡らしさや季節感を演出する添景としての中高木を植栽します。大きな芝生広場には、スケール感と調和する、樹冠が広がる緑陰木を植栽します。

【代表的な候補樹種】

東西の骨格をつくる



クロマツ



オリーブ



ホルトノキ

広場空間に緑陰を生む



ケヤキ



アキニレ

3 | (4) 竹島ベイパーク

c. 夜間景観

- ・ランドマークとなる施設を活かしたシンボリックな夜景の創出
- ・緑と遊歩道の最適な陰影。安心感もあり、明るすぎない遊歩道。
- ・船だまりなど親水性の高い水辺は、水辺らしさを際立たせるあかりの効果を取り入れる

あかりの方針

- ・ランドマーク、エントランスゲートなどのライトアップ
- ・樹木や花壇、屋外賑わい施設への照明演出
- ・遊歩道や広場の照明は下方配光もしくはスポットライトポールで陰影と明るさ感を両立

照明演出の手法

■ 道路・街路 照明

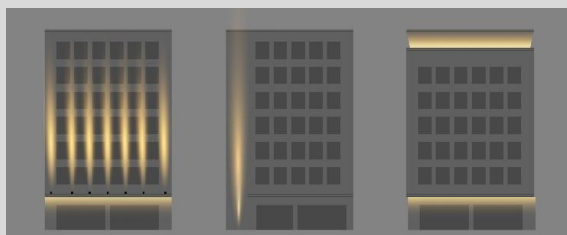


全方向に光が拡散する灯具は、光源が直接見えるものが多く、グレア（不快なまぶしさ）を感じます。この手法では無駄な光が上方に拡散し、効率よく路面を照らせません。

落ち着いたまちなみや観光地では、周辺の落ち着いたあかりに対し白色の光は調和しにくいので、暖かな電球色を選択しましょう。

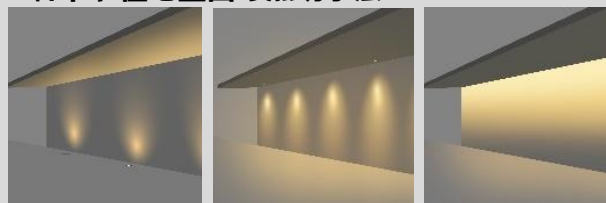


■ 建物外壁の演出手法



建物の形状や外観デザインに応じてそれらを活かす照明演出を行いましょう。閉店後にも点灯することで、ビルのイメージを向上させると共に周辺の安心感を高めます。間接照明が最適です。

■ 軒下や住宅壁面の照明手法



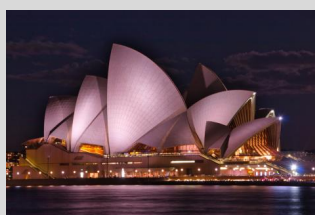
地中埋設照明 軒裏ダウンライト 間接照明など

壁がある場合は面として照らします。美的価値を高めると共に、周辺の安全・安心に寄与します。

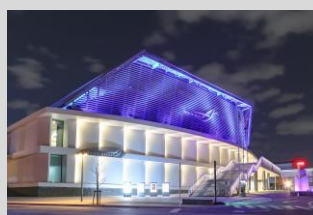
■ カラー演出

ランドマーク建築物のライトアップの際、カラー演出が取り入れられることが増えています。

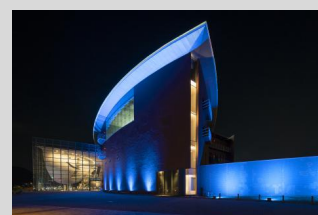
カラーの色彩は、原色を避け落ち着いた色彩での調色にし、早い動きを避けましょう。



シドニーオペラハウス



高崎アリーナ



下関水族館（海響館）

3 | (4) 竹島ベイパーク

d. 建築物

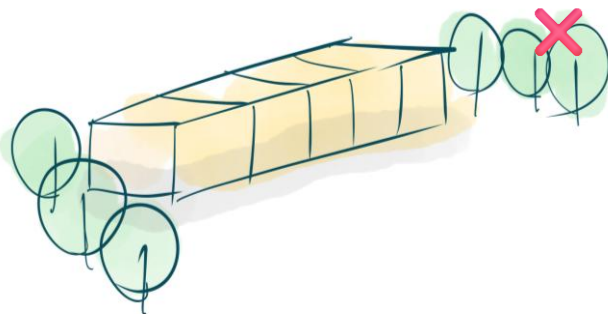
竹島ベイパークに建築物を新築する際には、以下の方針をもとにデザインすることとします。

※水族館等のエリアの象徴となる建築物を建てる際は、上記によらず、計画・設計を行う。

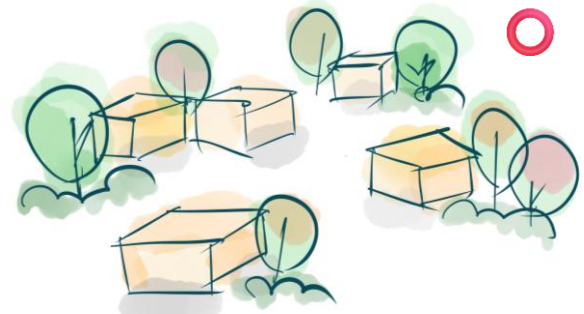
- ・全体のシークエンスや周辺の建築物との関係性に配慮された配置、形状である。
- ・海辺の路地的風景を基調とし、海への眺望や植栽との関係性を楽しめるデザインである。
- ・東港地区らしい賑わい風景の創出に対する工夫がなされた形状、色調である。
- ・海や空への開放感を感じる形状である。

デザイン例

❖建築デザインの例)



一方通行的空間



リズムカルなデザイン、交わる空間

路地や広場といった屋外と一体にエリアを楽しめる体験をデザインします



眺望を考慮していない配置



眺望を活かす配置

海への眺望を意識したデザインや配置とします

参考資料

用語解説

本景観デザイン指針で使われている用語を、項目別に掲載しています。

計画関係

プロポーザル	企画競争方式の1つであり、対象業務に関して企画案・実施方・針等の提出し、た設計対象に対する発想・解決方法等の提案を審査し、設計者を選定する方式です。
--------	--

デザイン・設計関係

ヒューマンスケール	人の体格や身体感覚、視覚、歩行速度などに基づいた空間の大きさや構成の考え方です。居心地や使いやすさに直結します。
バリアフリー	年齢や身体能力に関わらず利用しやすい環境を整える考え方です。段差解消や動線計画などが含まれます。
ランドマーク	地域が目印や象徴となる建物・構造物・景観要素です。位置認識や地域のアイデンティティ形成に寄与します。
シークエンス	移動に伴い連続的に変化する空間体験の流れを指します。景観の演出や期待感の形成に重要な要素です。
ビューコリドー	特定の景観や対象物への視線を確保するための見通し空間のことです。
スカイライン	建物や地形によって形づくられる空の輪郭線。都市景観の印象を左右する重要な要素です。
フォトジェニック	写真に収めたときに魅力的に見える空間特性。印象形成や記憶に残る景観づくりに関係します。
ナチュラル植栽	自然の群落構成や植物の成長過程を参考に、多種の草花や宿根草などを組み合わせてつくる植栽手法で、省管理であることが特徴です。季節ごとの変化や動きのある景観を楽しみながら、生態的な多様性や維持管理の合理性にも配慮した景観づくりに寄与します。

本景観デザイン指針で使われている用語を、項目別に掲載しています。

色温度	照明の色温度とは、光の色合いを示す尺度で、単位はケルビン（K）です。数値が低いほど赤みがかった暖色、高いほど青白い寒色となり、空間の雰囲気や心理的印象に影響を与えます。
照 度	光で照らされた面の明るさの度合いを表す物理量です。単位はルクス（lx）です。道路など様々な環境で推奨照度が設けられていますが、照度確保だけでは環境の快適性は得られません。
輝 度	光源や反射面をある方向から見たときの「まぶしさ」の度合いを示す数値です。単位はカンデラ（cd）です。
グレア	視野内の明るい物体による不快な「まぶしさ」や、それによって物が見えにくくなる視覚現象のことです。
配 光	照明器具や光源から放射される光の方向性や広がり方のことで、空間の明るさの均一性や影の出方を決定するため、照明設計において非常に重要です。
間接照明	光源からの光を壁や地面に反射させて利用する照明手法で、柔らかくムラのない光が空間に広がります。設置時に光源が直接見えないことが重要です。
鉛直面の明るさ感	人の視野の7~8割はタテの面（鉛直面）を見ていると言われています。そのために「鉛直面の明るさ感」は重要です。夜間の環境において、その場所に対して「明るい」と感じるには、壁や樹木などの鉛直面に対して明るさがあることが重要です。
照明制御	LEDの普及により今日では公共照明でも調光（あかるさの強弱）をすることが可能です。エリアごと、街路ごとに深夜でも安全・安心な明るさを保ちつつ、大幅なエネルギー削減が可能となります。